

## “日赤ライブラリアンの会”が発足！

木下久美子（高山赤十字病院図書室）

平成6年7月9日に大阪市内で、日赤病院図書室担当者による有志の会が開かれました。病図研や病図協に加盟している中部・中国地方の担当者を中心に11名に参加を呼びかけたところ、10名の出席を得て開かれたもので、業務やサービスに関する資料や情報の交換をしました。

これまで、数年に1度病図協や病図研の研修会や日本病院会が主催する全国勉強会の折りに、顔を合わせることがあったのですが、ゆっくり語り合う時間がなかったので、“いつか集まろう”と言っていたのが実現したものです。同じ日赤同士ということもあって、共通する話題もあり、話が弾んで楽しい一時を過ごしました。

利用者サービス向上のためにもこのような機会を継続して開きたい、とする参加者全員の希望から、“日赤ライブラリアンの会”という有志の会を発足することとなりました。今年度の会の代表を名古屋第一日赤の笠原氏にお願いして、浜松日赤の飯田氏および高山日赤の木下が世話役に当たり、当面は以下の活動を行うことになりました。

- ・会員が交替でニュースレターを発行して、担当者同士の交流と、業務に関する情報交換を促進する。
- ・日赤病院図書室の実態を把握するため、全国的なアンケート調査を行う。
- ・会員の拡大に努める。
- ・“より速く、より安く、より手軽に文献を入手する方法”をテーマに来年度に勉強会

を開く。

活動経費として、参加者からカンパを募りました。

病図協・病図研に加盟している者が多いにもかかわらず、この会が発足した背景には、①最近の製薬会社の文献サービス中止で、文献入手ルートの拡大が求められている。

②研修会で学んできた情報管理に関する新しい知識・技術を実務に生かすには、継続して情報交換できる場が必要である。

③日赤病院では担当者の多くが庶務・総務系の事務部門に所属しており、移り変わりの激しい情報社会にあって今後の図書室や担当者の配置・立場について、共通する不安がある。

ことなどが挙げられると思います。

情報社会が絶えず変化・進歩し続ける中にあるのは、医学資料(情報)を提供する図書室の機能・サービスにも大きな変化が求められるでしょう。また組織内にあって担当者1、2人という弱い立場の部署だけに、今後どのような対応を求められるのか予測しがたいものがあります。したがってこの会も、全国の日赤図書室をカバーするネットワークに繋げてゆけるかどうかは不明です。しかし“病院という組織の中であって、地域医療に多少なりとも貢献できる仕事をしてゆきたい”とする参加者の気持ちは一致しており、周囲の理解を求めながら前向きに、かつ柔軟な態度で会の運営を進めてゆきたいと思います。